

1998年4月

(平成10年)

No. 16

# Amizade

発行 中津川市姉妹都市友好推進協会

岐阜県中津川市かやの木町2-1

中津川市役所 秘書室内

〒508-8501 ☎0573-66-1111

## ～姉妹都市協会ニュース～

## レジストロ市からの贈りもの

平成十年五月一日「夜明けの森きらめきパーク・中津川市鉱物博物館」が苗木地内にオープンするのを記念して、姉妹都市レジストロ市から両市のさらなる友好推進を図るために貴重な鉱物の寄贈がありました。

レジストロ市のあるブラジル連邦共和国は世界有数の鉱物産出国であり、贈られた鉱物は、高さ125センチ重さ300キログラムの紫水晶の晶洞をはじめ、黄・桃・緑色などの珍しい水晶・小水晶あわせて135点。なかでも、紫水晶の晶洞は入口正面の階段横に展示され、その他の鉱物も企画展示室にて紹介展示する予定です。ぜひご鑑賞ください。



中津川市鉱物博物館

# 新協会長に鈴木さん



中津川市姉妹都市友好推進協会理事會（総会）は、昨年5月に役員改選を行いました。昭和62年から務めていた、ご逝去された杉本英夫会長の後任として、鈴木嘉進さん（中津川ふるさと芸術文化保存会会長・千旦林）に写真Ⅱを選任しました。

## 鈴木会長からのメッセージ

中津川市が80年8月4日にブラジル連邦共和国サンパウロ州レジストロ市と姉妹都市提携し、今年で17年を迎えました。この間、両市民間の友好を深めるとともに、広く諸外国との交流を促進し、海外文化との接触を通して国際化に対応できる「都市づくりと国際親善」をモットーに役立つ協会を目指して参りました。今後もこれを継承し邁進していききたいと思っております。

また、今年は苗木地内に鉱物博物館が建設竣工にあたり、レジストロ市から大変珍しい石などを寄贈していただきました。今年5月のオープン時には、市民の皆様の目を引きつけ、楽しんでいただけることと思います。最後になりましたが、最善の努力を傾注してまいりる所存ですので、杉本会長同様、ご指導ご鞭撻をよろしく願います。



中津川市制四十五周年事業「ほっちよせ踊りコンテスト」が8月12日太田町駅前通りで開催され、市内在住のブラジル人チーム「アミーゴス」（5名）が参加しました。



▲ただいま「ほっちよせ」練習中

コンテストは、江戸時代の馬子唄ではないかといわれている地元の代表的な民謡「ほっちよせ」を普及させようと開かれたもので、34チームがそれぞれ工夫をこらした衣装で参加しました。ほっちよせは、ゆつたりとして優美な従来のものと、テンポの速い新ほっちよせの2種類があり、ブラジル人チームはアルベスさんを中心に小川琴子さんから熱心に踊りの指導を受け、本番のぞみましました。なじみのあるサンバとはかっつてのちがう民謡に最初は戸惑ったようでしたが、持ち前の明



▲喜びのアルベス夫妻

ブラジル岐阜県人会会長の山田彦次さん（ブラジル・サンパウロ在住）が、昨年10月23日市役所を訪れ、今年5月に開催される「ブラジル岐阜県人会創立60周年記念式典」の案内状を中津川市長に手渡しました。60年は、人間にたとえれば還暦の節目の年でもあります。今回、友好親善訪問団一行は、県とともに創立記念式典に公式参加し、姉妹都市レジストロ市へ表敬訪問します。



▲山田彦次会長（左）と小林市長

互いに手をたずさえて新世紀へ踏み出すきっかけにしたい、それが式典のテーマ。21世紀の岐阜県と岐阜県人会に込められた熱い思いではないでしょうか。

# 5月22日訪伯団が出発



参加者全員で記念撮影

るさで楽しく踊り「ほっちよせ普及委員会賞」を受賞しました。

自主サークル「ブラジルに親しむ会」では「ポルトガル語講座」の受講生を募集しています。中津公民館で毎月一回、杉村紀彦先生を講師に、ブラジルの文化やポルトガル語を楽しく学んでいます。問い合わせ先  
ブラジルに親しむ会代表 牛丸朝子  
☎（〇五七三）66-1081-3

# はじめてのパターゴルフ



11月9日阿木パターゴルフ場で、ポルトガル講座の受講生たちと市内在住のブラジル人との交流会が開かれました。

た。なかでも、みそ味の豚汁は「おいしい」「温まる」とブラジル人たちにも好評で、日本の味を堪能したようでした。昼食の後はゴルフの成績発表を行いました。ゴルフは初めてというブラジル人たちも上位に入賞するなど優秀な成績をおさめました。会の最後は、アルベスさんのギター演奏とともに「とんぼ」をみんなで歌い盛り上がりしました。



▲おいしいね、バーベキュー！



▲3位のナガセさん

## 平成10年度会員募集

中津川市姉妹都市友好推進協会では、ただいま会員を募集しています。

会費は、  
個人 一〇千円  
法人 一〇万円  
団体 一〇五千元

申込み用紙は、中津川市役所秘書室または各支所、市内の各金融機関の窓口へ備えてあります。当協会の活動を盛り上げ、国際交流の拡大を図るため、ひとりでも多くの皆さんの加入を願います。問い合わせ先  
中津川市姉妹都市友好推進協会（中津川市役所秘書室内）  
☎（〇五七三）66-1111  
内線三〇四



▲さて、うまくはいるかしら???

# わたしがみたブラジル

～岐阜青年親善交流を終えて～  
岐阜県主催の第13回岐阜青年親善交流団一行5名が、9月4日から16日まで延べ13日間の日程でブラジル各市を訪問しました。団員の1人である井上恵さん（川辺町在住）からレジストロ市を訪問した際の感想や思い出を寄せていただきましたので紹介します。

今回の派遣では、特に岐阜県人会の皆さんに大変お世話になりました。レジストロ市をはじめとする各地で本当に温かいもてなしを受けました。まるで、久しぶりに再会した家族か友人かのように。その時、1世のおじいちゃんと言いました。『同じ日本から来たんなら、家族と一緒にじゃ』と。そう言って笑ったおじいちゃんの顔を思い出すと、今でも胸がいっぱいになります。

そして交流を通じて、日本人の移住後の苦勞、子弟の教育に力を注いできたこと、ブラジルで農業をはじめ幅広い分野で高い評価を受けていることなどを、実際に見聞きすることができました。日本にいたら知ることさえなかったであろう事を、今回の派遣では目で見、肌で感じることができ、「視野をひろくもつ」ということの意味が、ようやくわかったように思います。

また、日本から一番遠い国で、日本の文化や習慣が大切に守られていたこと、日本に対する思いが深く深いことには、自分がいかに日本人として他国はおろか、自国のことにさえ関心が低く、知らないことが多いかを思い知らされました。そして、ブラジルの文化に触れ、いろんな人と出会い、違った角度で自国を見つめることができました。それは自分を見つめることでもあったと思います。国際交流とは、まず自国の文化を知り相手の文化を認め、理解しよとすることではないでしょうか。



▲レジストロ市のお茶農場（左端が井上恵さん）

# 心にしみいるふるさとの歌

市内落合の声楽家・渡辺洋子さんが、ピアノリストの竹内陽子さん（土岐市）とともに「ふるさと愛唱歌」リサイタルのため昨年11月27日から10日間の日程でブラジルを訪れました。渡辺さんは、『春が来た』『七つの子』『木曾節』など日本の歌30曲を披露し、会場を埋めた人々から拍手喝采を受けました。その時の模様を渡辺さんに綴っていただきました。

昨年11月、ブラジルの日刊紙パウリスタ新聞の創刊50周年記念事業の一つとして「ふるさとの愛唱歌」リサイタル講演のためにブラジルへ行ってまいりました。

子どもから大人まで一緒に楽しめる「日本の歌」のリサイタルを、日本の学校や病院、ホールなどで行ってまいりましたので、



▲熱唱する渡辺さん

## 渡辺洋子の BRAZIL

同様のリサイタルをブラジルの人達のためにも開いてほしいとのことでした。今回の開催目的の一つにはブラジルに移住し、すでに老境に入られた日本人移民の方々に、生まれ育った故郷をなつかしい歌でしのんでもらえたら、また一つには、次代を

担う青少年少女達に連綿と歌い継がれてきた情緒豊かな日本の愛唱歌を普及する運動につなげたいとの主旨でした。

リサイタルはサンパウロ、イビウーナ、そしてパラナ州のマリンガの3会場で行いました。当日はどの会場も早くから大勢の人達が詰めかけていっぱいになりました。

「さくらさくら」に始まって日本の四季折々の童謡、唱歌、わらべうたや歌曲、民謡などを歌ってゆきますと、一曲一曲をまるで聞いた砂が水を吸い取るよう一生懸命に聴いてくださり、そのうちに（もう歌わずにはいられない）とでもいうように会場の皆さんも歌い出しました。

「春が来た、春が来た、どこに来た」夕焼け子焼けて日が暮れて「嬉々として歌う姿、きつと心になつかしい故郷の春や秋の風景を思い浮かべていらつしやることでしょう。92歳のおばあさんはプログラムの歌をほとんど知っていると元気に歌って下さり、1800キロも離れたところから36時間もバスに乗って「ただただ日本の歌を聴きたくて、歌いたくて」とかけつけて下さった男性もいました。

### こみあげる熱い想い

日本を遠く離れてブラジルの大地に生活しながら嬉しい時、悲しい時、苦しい時に日本の歌

を歌ってどんなにか心慰め、励まし、勇気を出し合って生きていらつしやったことでしょうか。地球の反対側の地で同じ歌を歌って心が通じ合えば、私達は大人も子どももどんなに離れていてもずっと昔から知りあっている親しくなつかしい同胞なのだという熱い想いが込み上げてきてお互いに胸がいっぱいになりました。最後は皆一緒に「赤とんぼ」「ふるさと」を大合唱しました。そして、少なからず一

緒に聴きに来てくださったブラジル人の皆さんのために感謝の気持ちを含めて大好きなブラジルの曲「黒いオルフェ」を歌い大変喜んでいただきました。10日間に7日も歌い続けるというハードスケジュールでしたが、毎日が本当にすばらしい笑いと涙の感動の旅となりました。温かい歓迎をして下さったブラジル各地の皆様から感謝いたしております。

## 見に来てね! ブラジル雑貨のお店



▶「FRIENDS」経営の川上さん一家

旧国道257号線沿いの苗木山の田バス停近くに、市内在住のブラジル人・川上夫婦が経営するブラジル輸入雑貨の店「FRIENDS」があります。小さなお店ながらもブラジルのビールやスナック菓子、新聞など南国文化満載です。奥さんは日本人だから、ポルトガル語を話せなくても大丈夫。ただし、営業時間は平日夕方と休日のみなので気をつけて。皆さん誘い合ってぜひ出かけてみてはいかがでしょうか。